

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームにのみの家		
所在地	三重県津市新家町1488		
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町提出日	令和3年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2470600418-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は住宅地の中にあり、地域の方々との交流も比較的盛んに行われていると思います。隣に光明寺と言うお寺さんがあり、利用者様の散歩コースになっています。春には見事な桜が咲き、今年は新型コロナウイルスの為、外出が出来なかったので、駐車場にテーブルを出し職員の手作りのお昼ご飯をみんなで食べながらお花見をしました。季節ごとの行事は全階合同で行うことが多く、職員同士も団結していると思います。外出が出来ない今の状況の中でも、利用者が落ち着き、かつ穏やかな日々を送って頂ける様に、職員一同で取り組んでいます。重度化してきて中、当施設では看取り等は行っていなかったが、ご家族様の強いご要望もあり、かかりつけ医などに協力して頂きながら対応するなど、より最善の方法に近付けるよう柔軟に対応している。今後も現状に囚われず多岐にわたり、訪問看護など取り入れるよう検討し話をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は設置後15年ほど経過し、地域ではそれなりの実績を積み比較的安定した関係が築かれている。利用者は少しずつ介護に労力がかかるようになってきているが、各々の心身状況に合わせ、見守りをしながら必要な支援が適宜なされている。このような利用者を介護するため、職員は毎月の会議や日常の会話をとおして意見交換を活発に行い、研修を重ね、キャリアアップの努力を重ねており、事業所全体が組織的運営を向上させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たな理念の検討をしていたが、コロナ禍により対応に追われる事が多く、理念は変わっていない。大変な時期の中、現事業所理念の再共有も含め、実践につなげるよう努めている。	法人は当事業所の他、近隣に二つの介護事業所を運営している。その理念は法人で定めただが、長い文書のため今、簡潔な文言にするよう職員間で検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナ禍でイベント等の中止が多く交流が少ない。運営推進会議にて、意見の交換やお互いの要望に応じている。	昔からの農村で地域行事に参加したり、隣の寺の伝統行事に関わったり、散歩で寄ったりしている。また、近くの小学生徒と交流したり、保育園の防災訓練に事業所の敷地を貸したり、中学生の職場体験を受けている。コロナのため、法人や事業所の行事が開催できない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症や利用者様の日常を伝え、質問に応じたりして地域に還元している。桃園幼稚園の避難訓練に施設の土地を利用して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や包括と定期的に話し合う事により、段々と密になってきている。隣のお寺から伸びる木が、当施設の電線にかかりそうになっており、現在話し合いの中伐採の段取りをしているなど、役立っている。	日程は不定期でも、2カ月ごとに開催している。議題は事業所の取り組み内容を報告し、意見交換するが、かなり多くの質疑応答がされている。コロナ禍で2回、文書のみでやり取りした。	事業所設置後の地域関係もあり、意見交換は活発である。参加者は地域・行政等であるが、参加メンバーが限られているようなので、テーマによっては多面的に呼び掛ける工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来る限り情報を聞き取りに行ったり、新たな取り組みがあるかの有無の確認等、密に連絡を取っている。	運営所に疑問があれば行政にはすぐ問い合わせようとしている。最近ではコロナとインフルエンザ予防注射の関係を聞いたが、行政も不明確なようである。生活保護も5名あり、保護課によく問い合わせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回定期的に内部研修を実施。具体的な行為など、正しく理解できるよう努めている。また、職員にY字ベルトを着用し疑似体験をして頂き「恥ずかしい。」や「動きづらい」などの感想を、他職員に伝えるなどした。	ケアマネジャー中心に職員間でよく議論したり、研修している。拘束やむなしになれば、家族に了解を求めるが、今はその事例がない。ただし、玄関頭上には電気式ロックがかかっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回定期的に内部研修を実施しており、虐待防止について学び防止に努めると共に、見過ごさない様注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は利用している方がみえ、自立支援については内部研修等で、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を読み伝え、その都度質問や疑問点を訪ねて、理解や納得を得ている。また契約時以降も疑問等があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口はあるが、意見や要望等のみを聞き取る機会などは設けていない状態。ご家族様から具体的なお話など無いが、会話の中から汲み取るなどして、運営に反映できるよう努めている。	コロナ禍で家族にも面会を断っているが、希望によって玄関先で面会してもらっている。家族からの意見は少ないが、家族には請求書に加え事業所の日常を知らせる「たより」を同封している。家族の多くは負担金の現金払いのため、毎月来訪してくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で上がった事や、日々の業務中での意見等を代表者に伝え、運営に反映できるよう努めている。	職員会議はフロアごとに毎月行っている。この中で、各委員会・カンファレンス・職務分担上の確認等を行っている。特に各自の意識改革を図るため、職務上の進捗について自己チェックを試行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度が確立されていないので、個々の職員は中々代表者に評価して頂く機会が無いが、チェックリストの作成をしており、通常業務やその他の勤務状況が少しでも把握出来るように現在進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍であり、以前に比べて外部研修等に参加しておらず、内部研修を中心に日々の業務中に話し合ったりして取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、他者の同業者やグループ内で接する機会は少ないが、グループ内施設への応援などの交流により、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の入所相談時、入居申し込み時など利用者、家族それぞれの立場からの思いを聞き双方の安心、信頼を得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族が困っている事、不安な事や要望等、しっかり話を傾聴し適切な対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所サービスに限定せず、広く本人・家族の要望を聞き、適切な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心から打ち解けた信頼関係の構築を心掛けている。本人の真の思いは信頼関係がなければ聞きだすことが出来ない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は家族よりも長い時間を共に過ごしている。信頼関係を築いた上で家族とともに暖かい支援が出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と心を通わずことで過去の生活にも触れ思いを共有することが出来るようになる。職員は1人1人に寄り添い思い出話や、思いを聞く事に努めている。	コロナで外出できないが、以前はよく実家付近まで出かけていた。今は家族同伴の外出が多くなったが、家族も全体に控えめになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	何となく気の合う人があり、自然と安心できる平穏な組み合わせが出来る事がある。孤立、孤独にならないように支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話を頂いたり、職員も近況を伺ったり転居先を訪ねたりする。その気持ちが温かくうれしい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して自ら進んで話せる場を作り傾聴に努めるのはもちろん、日常動作の中にサインがあったりする。仕草、表情から読み取る心配りが必要となる。	重度化し、失語症もあり、職員の言うことが理解できなかったりするので、管理者はその対応に注意している。いろいろな人のいろいろなニーズへの対応に職員は苦勞するが、それでも管理者は見落としのないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・家族と充分話し合い、聞き、生活歴などの把握に努めているが、入居後の日常生活の中から気付きも多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中に見出されたり、感じ取れる変化があったりする。慣れるに従い見落とししたり気づかない事がある。気づく心を忘れないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回全員参加のユニットの職員会議においてモニタリングを行い、本人、家族、職員、協力医の意見など聞き本人本位の計画作成に努めている。	モニタリングとケアプランは3か月毎に見直しするが、他に体調の変動、認定変更後にも検討している。カンファレンスは1～3階を別々にするが、1階の管理者が全ての集まりに出席している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ、業務日誌などの記録や業務交代時の申し送りなど情報の共有や漏れのないように日々心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に対応出来るよう施設の構造、体制面等、できる限り対応出来るよう努めなければならない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢に伴い可能領域が減り制限もあるが、時にはボランティアなどの協力をいただきながら支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、事業所の協力医との関係を密にし、緊急時を含め適切に対応出来るよう努めている。	協力医が毎月往診している。しかし入居前の通院先に通う人も半分近くある。通院先は整形外科・内科・皮膚科・リハビリ・総合病院等に行くが職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、利用者の高齢化に伴い訪問介護を受けられるよう検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医と24時間対応で指示が受けられる体制が出来ている。入院の手配など迅速にとれ利用者は安心して入院治療でき、病院関係者との協力関係も良い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状看取りは行っていないが、家族の要望で終末期も当事業所でみて頂きたいと言われている。かかりつけ医の協力を得ながらその都度家族と相談し進めています。	看取りはしない方針で、指針もないが、家族に頼まれ最後までお世話をした経験はある。訪問看護との連携はしておらず、法人もその意向はない。協力医の指導を受けながら、職員のできる限りのことをして、穏やかな最期を迎えてもらった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導やAEDを使った研修、外部研修等行っているが、コロナ禍でなかなか外部研修は受けられない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害を想定し、避難訓練を行い災害時はマニュアルに沿って臨機応変に対応出来る様、職員全員が周知徹底に努めている。地域との協力体制も運営推進会議を通して築いている。	6月、12月に防災訓練をした。訓練時、消防署は参加せず防火管理者が主体で行うよう指導された。近くに住む職員には休みでも訓練に参加してもらう。火事、水害、津波の各マニュアルが策定されている。当事業所が近隣の救護場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を無視するような言動に気をつけ、スタッフ全員が和顔愛語の理念を頭において笑顔と優しい言葉使いを実践している。	会議や研修の都度、プライバシー保護の総合的な取り組み方について確認している。日常的にも全般的に注意している。排泄、入浴介助ではその都度ドアを閉めて支援している。利用者への呼びかけは苗字を呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどんな事も話しやすい雰囲気作りや、希望を聞き取る余裕を持ち、聞いたらできる限り実行に移すように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で個々の意思を尊重し、1人1人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人差はあるが、清潔を保つことに繋がるので支援しています。定期的な散髪や、爪切り、髭剃りについては毎日チェックしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍にあり利用者様と職員と一緒に外食を楽しむ事は出来ないが、おやつ作りのトッピングを手伝ってもらうとか、出来る範囲で楽しんでいただくよう工夫をしている。	メニューと食材は業者に依頼、調理は職員がする。誕生会や行事は独自のメニューで提供するが、普段食べられないものを作っている。時には手作りおやつも作っている。今は体調、その他で、利用者は手伝いできない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指導を受けながら、食事、水分量の記録を取り適量摂取に努めている。自分で食事を摂れない方は介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人の能力に応じた支援の方法で口腔ケアしている。歯科往診での口腔洗浄もあり、積極的に口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考にそれぞれの排泄パターンに合った支援を行い、オムツの方も可能な限りトイレに座って用を足して頂く機会を増やしている。	排泄自立は少ない。排泄チェックするが見守りは2～3名、あとは適宜誘導している。津市の紙おむつ給付事業によるおむつ量では不足がちである。便秘が多いので食事で野菜を増したり、時には医師に下剤処方を頼んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物にオリゴ糖を入れて提供したり、薬に頼るのではなく体を動かすことを増やすなど、生活習慣を見直したり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿うのは難しく、職員の勤務体制により入浴時間が決まるが、個々の好みに合った湯加減、入浴時間を把握し楽しんで頂けるよう対応している。	週3回入浴できるよう順番を決めており、利用者が分かりやすい順番票が貼ってある。時間は午後が多く、一般浴槽であるが、介助しやすい椅子が置かれている。同性介助にこだわらない人が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度に体を動かしたりする事を心掛け、入眠前の気持ちのあり方も大切なので、その時の状況に応じて意に添うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の支持の下、1人1人の薬の作用・副作用を学び状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯たたみを手伝っていたり、毎日のレクリエーションを工夫したり、行事を計画など、毎日が楽しくあるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍にあり外出できず、必要最小限の病院受診しか家族と出かけられない現状です。外気浴や近くへの散歩はなるべく出来るよう支援している。	これまでは4月は花見、5月いちご狩り、6月アジサイ祭等、毎月何かの行楽行事をやってきました。現在コロナで外出できないので庭でピュッフェをしたり、近くを散歩したり、隣の寺に行く等の工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい欲求もそれぞれ違いますが、外出時にお金を持って好きなものを買っていただく機会を作っているが、今はコロナ禍にあり買い物すら行けてない現状です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今までのように自由に面会できないので、電話で話したりする機会を増やしている。タブレットによるリモート面会の導入を検討している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者様が作った作品や、季節に合った壁画を飾ったり、加湿器や除湿器、床暖房など生活環境の整備に努め換気にも力を入れている。	屋は皆がホールに出てきて手芸品作り等、各々ができることをしている。できた品は法人本部の秋祭りに展示する。室内は木張りのため雰囲気やわらかで、冬は床暖房で動きやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人になりたいときはそれぞれの居室に戻って行かれますが、共用空間や屋外では椅子やテーブルを配置し、語らいの場が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみの家具やテレビ等を自由に持ち込んでもらい、その人らしい雰囲気が漂っています。家族の写真やレクで作った作品等を飾っている事もある。	ベッド・エアコン・クローゼット・トイレ・洗面台は事業所でセットしてある。他の調度品は各自好みや必要に応じて持ちこんでおり、仏壇を置いている人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差もなく間隔の広い手すり等、安心安全であり、その人に合った能力の範囲で自立した生活が送れるよう支援している。		